

	シーズ名	消化管内細菌叢に基づいた胃癌の免疫チェックポイント阻害剤の新しい治療選択
	所属・役職・氏名	消化器内科学 講師 平良高一 (TAIRA, Koichi)
<p><要旨> 現在、免疫チェックポイント阻害薬が様々な癌治療に対して用いられている。2017年9月に胃癌に対して抗PD-1抗体が、世界に先駆けて本邦で承認された。しかし、免疫チェックポイント阻害薬と消化管内細菌叢、特に胃内細菌叢との関連は不明である。本研究は、ヒト胃組織及び糞便を用いて免疫チェックポイント阻害薬の投与前後で、細菌種を同定することで、どの細菌種が腫瘍縮小や有害事象の発現に影響を及ぼしているかを解明することを目的とする。これらの検討により、前もって胃内及び腸内細菌叢を操作することで、治療効果の増強や有害事象の軽減に繋げる事で、胃癌治療に対する新たな治療戦略を確立することを目的とする。</p> <p><研究シーズ説明> 免疫チェックポイント阻害薬投与前後の進行胃癌の患者から内視鏡下に胃粘膜組織と糞便を採取して、16S rRNA 細菌メタゲノム解析を用いた胃内細菌叢及び腸内細菌叢の検討を行い、特定の細菌種の同定を試みる。また、腫瘍縮小や有害事象の発現割合に関連する特徴的な細菌種が存在するかの検討を行う。次に、マウス胃癌発癌モデルを用いて、解析によって同定された細菌種が、腫瘍縮小効果に及ぼす影響を検討する。</p> <p><アピールポイント> 免疫チェックポイント阻害薬による腫瘍縮小効果や有害事象発現割合に影響を及ぼす胃内細菌叢及び腸内細菌叢を同定することで、治療前に、それら細菌叢を移植や除菌することで、より有効で、安全な抗がん剤治療をおこなうことができるようになる。</p> <p><利用・用途・応用分野> 免疫チェックポイント阻害薬による胃癌治療における新規バイオマーカーの開発 有害事象軽減に繋がるバイオマーカーの開発</p> <p><知的財産権・論文・学会発表など> なし</p> <p><関連するURL> http://osaka-cu-gastro.jp/gastroenterology/</p> <p><他分野に求めるニーズ> 次世代シーケンサーを用いた簡便な腸内細菌叢の解析システム</p>		
キーワード	胃癌 免疫チェックポイント阻害薬 消化管内細菌叢	